

第4学年 国語科学習指導案

平成28年11月2日(水) 5校時
4年2組(男子10名 女子11名 計21名) 本時3/8
授業者 吉井 惇也

- 1 単元名 クラスみんなで話し合おう ～ぼくらが創る学級会～
教材名 「クラスで話し合おう」(東京書籍4年下)

2 単元の目標

- 自分の役割を意識して、話し合いを進めることに意欲的に取り組もうとすることができる。
(関心・意欲・態度)
- 話し合いの中で互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、
進行に沿って話し合うことができる。
(A 話す・聞く オ)
- その場の状況や目的に応じて、理由や事例を挙げながら適切な言葉遣いで話すことができる。
(A 話す・聞く イ)
- 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。
(言 イ (ア))

3 単元について

(1) 単元観

① 本単元で取り上げる主な指導事項

本単元は、小学校学習指導要領国語の第3学年及び第4学年「A 話すこと・聞くこと」の指導事項「オ 互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと」「イ 相手や目的に応じて、理由や事例を挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉で話すこと」を取り上げて指導する。特に指導事項(オ)を重点的に指導する。

② 付けたい力へ向けての言語活動とその特徴

「A 話すこと・聞くこと」の言語活動例「イ 学級全体で話し合って考えをまとめたり、意見を述べ合ったりすること」を具体化した『クラスみんなで話し合おう～ぼくらが創る学級会～』という言語活動を位置付ける。

ここで取り上げる『クラスみんなで話し合おう～ぼくらが創る学級会～』は、司会者や提案者、参加者、記録係という役割のいずれかを担い、話し合いを進めていくというものである。話し合いにおける自分の役割を意識し、議題に沿って意見を集約したり討論を交わしたりして考えをまとめていくことで話し合う力が身につく、「互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと」(A 話すこと・聞くこと オ)ができるようになることを考える。

(2) 児童観

児童は、3年生の11月『グループで話し合おう』で、司会を決め、グループで話し合って考えをまとめる活動を経験している。

4年生という発達段階の児童は、自分と異なる考えを受けとめることができ、物事を自分たちの意思で決めたいという気持ちも強くなっていく。本学級の児童は考える時間を与えれば自分の考えを持つことができる。しかし、友達の意見と自分の意見の共通点や相違点はどこなのかしっかりと意識して聴いていないように感じる。そのため、意見を求める場面では自分の意見を押し通してしまうなど友達の意見を共感的に受けとめることができないことがある。また、発言することが苦手な児童は意見を一度否定されてしまうとなかなか挙手することができなくなる。観点や話題から逸れた意見が出てそのまま流れてしまうことがあり、教師からの助言がないと軌道修正できないことも見受けられた。

今年度4月に行った標準学力調査では、「話すこと・聞くこと」の領域において、クラス平均72.5(全国平均76.2 目標値73.3)であった。さらに個人成績をみると、20人中15名が目標値を下回っている。

そこで、「話すこと・聞くこと」について、児童が興味をもって取り組めるように単元名を『クラスみんなで話し合おう～ぼくらが創る学級会～』とした。発言をよく聴いて共通点や相違点を考え、司会者等の自分の役割を意識するようにさせていく。

(3) 指導観

第一次では、クラスみんなで話し合うという学習の見通しを持たせ、今までの自分たちの話し合いの課題を考えさせる。そのためにまず、教師による話し合いのグッドモデルを視聴させる。それにより、目指していく話し合いのイメージを児童達に持たせる。視聴させた後には話し合いにおける役割である司会者、提案者、記録係、参加者の4つを確認する。1学期の学級活動でも児童が主体で進めることを体験している。その際には役割を議長、副議長、提案者、黒板書記、ノート書記、参加者の6つに分けて行った為、役割を表す言葉が混同しないように留意する。次に2学期の始めに行った児童の学級活動の映像を視聴させ、教師によるグッドモデルとは何が違うのかを考えさせる。話し合いの進め方は「①議題をたしかめる②意見を出し合う③それぞれの意見について質問する④それぞれの意見について話し合う⑤意見をまとめる」ということを全体で確かめていく。

1学期に学級活動の議題を考えさせた際には意見がほとんど出なかったため、第二次以降から始まる話し合いの議題は単元開始前から考えさせておく。その際に自分のクラスを見つめる期間を設定し、クラスがもっとよくなる議題をじっくり考えさせ、議題箱に投函させる。そして、単元開始前に投函した議題に教師が目を通し、選出しておく。第二次では、第一次で出された話し合いに対する児童の悩みを解決していくこととする。

本時ではグッドモデルから役割に応じた話し方はどのようなものがあるか考えていく学習を行う。児童は本時までには教師によるグッドモデルの話し合いを視聴している。良い話し合いについてのイメージは持っていることだろう。しかし、役割に応じた具体的な話し方については注目しておらず、本時で学習していくことで第三次に大きくつながる学習であると考えている。前時の家庭学習を「話し合いの中で上手くいかなかったことを解決するために話し合い原稿の中から使いたいと思うところに印をつけてくる」とすることで児童に本時の学習に対しての思考の見通しを持つようにさせる。そして、自力解決の時間を十分確保し、一人一人がしっかりと考えを持てるようにしておく。全体で交流する場面では、役割ごとの話し合いの仕方について自分の見つけたところを積極的に発言する姿を目指したい。さらに関わりあう場面では「どういうこと?」「ん?」「そっか!」などのつぶやきをきっかけにし、児童同士が自然に関わり合えるように授業を展開していく。授業の展開によっては児童は「ペアで話しあいたい。」と訴えてくるであろう。その機を逃さず、適宜ペア等の話し合いの時間を設けるようにする。本時の学習をまとめる際には各グループより出されたものから共通点や相違点を見つけさせ、自分たちで考えさせるようにしたい。本単元が始まる前に撮影しておいた児童の話し合いを想起させながら「よりよい話し合いをするために」という目的意識を持たせ、主体的に学習させていく。

話し合いの進め方と役割に応じた発言のコツをおさえた後は話し合いの準備を行う。司会には進行の仕方や出されるであろう意見を予想させ、提案者には提案理由や参加者からの質問を予想させる。また、参加者には議題について自分の意見と理由を整理させる。1つの役割ではなく、議題ごとに役割を変えていくことで児童は様々な役割を体験でき、その役割に応じた話し方や立場を意識するようになるだろう。

議題に沿って話し合う際は、「話し合いをするグループ」と「話し合いを見るグループ」という2つに分ける。1グループは5人とする。少人数で話し合いをすることで一人一人が活躍する場面や発言をたくさんできるということが期待できる。話し合いの様子を見る際は、一人一人が役割に求められる働きをしているのかを確かめさせる。話し合いが終わったら、話し合いをするグループと見るグループを交代させる。最後に、それぞれのよかった点やもっと意識するとよくなることなどを伝え合わせて、第三次に向かわせる。

第三次では、第二次までに学習したことを活かして、学級会を開く。司会者、提案者、参加者、記録係の役割のいずれかを担い、主体的に話し合いをさせる。第三次の授業の様子を撮影しておき、本単元が始まる前の話し合いと後日比べることで児童達についた力を実感できるように配慮する。

(4) 研究テーマとの関連「主体的な学びで共に高まりあう児童の育成」

「主体的に児童が学ぶ」ためには、児童の課題意識や困り感をもとに、「学習したい」「力を伸ばしたい」「なんとかして解決したい」という想いを持たせることが必要であると考え。そこで第一次に入る前に話し合いの活動を行い、上手いかわいという困り感を感じさせることで今回の国語の学習に対する必要感を持たせていきたい。

単元を通して「共に高まり合う」ためにペアや全体でよりよい話し合いの仕方を練り合っていく。児童は今までの自分たちの話し合いと比べながら思考していくことだろう。児童が互いに話し合うためには、自分の考えを持つことが大切になってくる。そのために授業の中で個人思考の時間を十分に確保したり予習型の家庭学習として次時につながるような内容のものを意識的に出したりしていく。

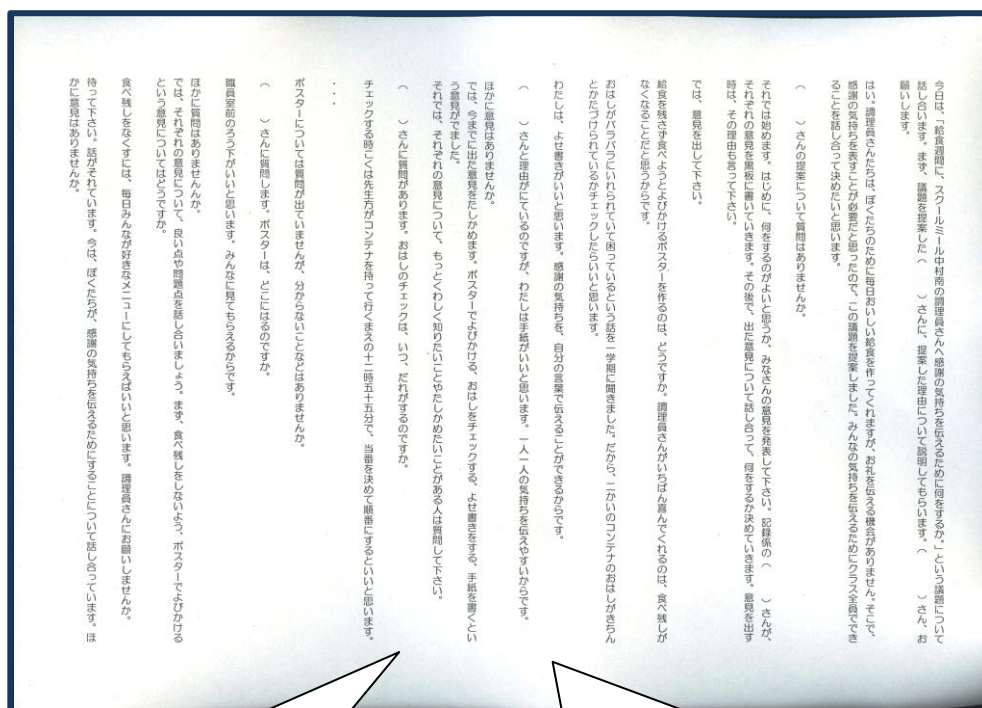
児童の思考が単元を通して途切れないように留意し、児童が抱いた疑問や意見を自由に出せるように雰囲気づくりをし、学習を展開していきたい。

4 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	・自分の役割を意識して、話し合いを進めることに意欲的に取り組もうとしている。
話す・聞く能力	・話し合いの中で互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合おうとしている。 (A 話す・聞く オ) ○その場の状況や目的に応じて、理由や事例を挙げながら適切な言葉遣いで話している。 (A 話す・聞く イ)
言語についての 知識・理解・技能	・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。 イ (ア)

〈言語活動のモデル〉「話し合いのグッドモデル」

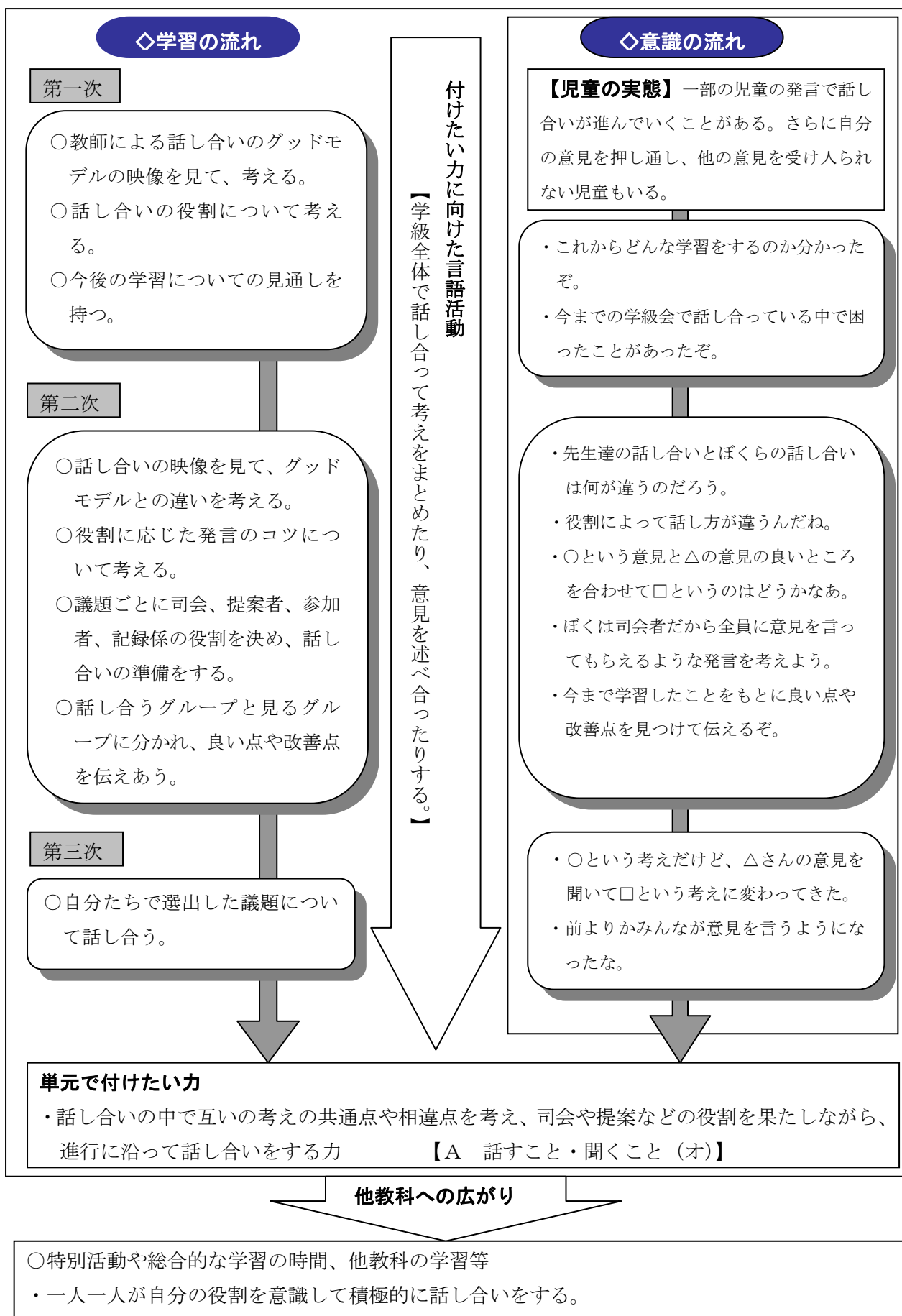
教科書 P43～P47 にある「島村さんのクラスの話し合い」をもとに原稿を作成した。本校には「配ぜん室」がないため、実態に合わせて作成し直した。



原稿は両面印刷にし、児童に配布することとする。

第一次で児童に見せた映像はこの原稿をもとに作成したものである。映像は本校職員の協力を得て、撮影を行った。

5 単元構想図



6 指導計画及び評価計画（全8時間）

	時	学習活動	主な評価規準
第一次	1	これからの学習の流れを知ろう。 - 単元の流れをつかむ。 - 教師によるグッドモデルの映像を見る。 - 話し合いにおける役割を確認する。	【関】自分の役割を意識して、話し合いを進めることに意欲的に取り組もうとしている。（発言、ノート）
	2	ぼくたちで学級会を創るために グッドモデルはどんなところがグッドなのか明らかにしよう。 - 自分たちの話し合いの映像を見てグッドモデルとの違いについて考える。 5つの話し合いの進め方について考える。	【話聞】モデルの話し合いをもとに話し合いの進め方について理解し、自分たちの話し合いとの違いをとらえている。（発言、ノート）
第二次	3 (本時)	ぼくたちで学級会を創るために 役わりごとの進め方のコツをまとめよう。 役割に応じた話し方について考える。	【話聞】役割に応じて、よりよく話し合いを進めるための話し方について理解している。（発言、ノート）
	4	ぼくたちで学級会を創るために 話し合いで発言する時の話し方や聞き方についてまとめよう。 役割に応じた話し方や聞き方について考える。	【話聞】役割に応じて、よりよく話し合いを進めるための話し方や聞き方について理解している。（発言、ノート）
	5	議題ごとに役わりを決め、話し合いに向けたじゅんぴをしよう。 議題ごとに役割を決め、話し合いの準備をする。	【話聞】自分の役割について考え、話し合う準備をしている。（発言、ノート）
	6	ぼくたちで学級会を創るために ミニ学級会を見あい、良い点やアドバイスを伝えあおう。 話し合うグループと見るグループに分かれ、良い点や改善点を伝えあう。	【話聞】話し合いについて互いの良い点や改善点を伝えあっている。（発言、ノート、映像記録）

	7	ぼくたちで学級会を創るために 話し合いを進めるポイントをたしかめよう。 ・話し合うグループと見るグループに分かれ、良い点や改善点を伝えあう。 ・話し合いを進めるポイントを確認する。	【話聞】話し合いをした後、互いの良い点や改善点を適切に伝えあっている。 (発言、ノート、映像記録)
第三次	8	学級会を開き、今までにつけた力をためそう。 ・自分たちで選出した議題について話し合い、付いた力を実感する。	【話聞】話し合いの中で互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話している。 (発言、ノート、映像記録)

7 学習の展開

第一次 1時間目（1／8）

（１）目標 自分の役割を意識して、話し合いを進めることに意欲的に取り組むことができる。

（２）展開

主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点（○） 評価（☆）支援（※）
1 話し合いをした経験を想起する。 ・学級会で学級の歌を考えた。 ・週目標の反省は1年生の時からやっているね。 思考したくなる課題設定 これからの学習の流れを知ろう。	○これまでの学校生活の中から話し合いをした経験を自由に発言させる。
2 課題を解決する。 （１）学習の流れを知る。 自力解決の場 （２）教師による話し合いのグッドモデルの映像を見て、いいと思う所をメモする。 ・話し合いに参加しているみんなが発言しているな。 ・それぞれに役割（仕事）がありそうだな。 かかわり合う授業 （３）話し合いの役割を確認する。 ・たしか学級会で進行する人は「議長」といったな。 ・書記という役割もあったな。 ・どんなことを話し合っていたか忘れてしまった。 （４）音読をする。 3 本時の学習を振り返る。 ・これから上手な話し合いの仕方を学習して自分たちだけで議題を解決できるようになりたい。	○映像を視聴する前に「給食週間に、調理員さんに感謝の気持ちを伝えるために何をするのか」を話し合う映像だということを伝える。 ○出演する先生たちの名前を出し、話し合いの内容に注目するように伝える。 ○学級会での役割を確認し、議長は「司会」書記は「記録係」であることをおさえさせる。 ※映像に出てきた場面を掲示し、話し合いの様子を想起できるようにする。 ○国語日記を書かせる際のポイントを示す。 ☆自分の役割を意識して、話し合いを進めることに意欲的に取り組もうとしている。 【関】（発言、ノート）
4 次時の学習を知る。 家庭学習のサイクル化 家庭学習 1 枚文をスラスラ音読できるように何度も練習してくる。	○次時はグッドモデルはどんな所がいいのか考えることを予告する。

第一次 2時間目（2／8）

（１）目標 モデルの話し合いをもとに話し合いの進め方について理解し、自分たちの話し合いとの違いをとらえることができる。

（２）展開

主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点（○） 評価（☆）支援（※）
1 本時の課題をつかむ 思考したくなる課題設定 ぼくたちで学級会を創るために グッドモデルはどんな所がグッドなのか明らかにしよう。	○言語活動を確認し、ゴールイメージを共有する。 ○国語日記を紹介し、意欲づけを行う。
2 課題を解決する。 （１）グッドモデル全文を音読する。 自力解決の場 （２）グッドモデルの良い所を探す。 ・みんなが発言しているな。 ・話し合いがスムーズに流れているのはどうしてだろう。 ・どんな話し合いがイメージしにくいな。 かかわり合う授業 （３）全体で交流する。 ・ぼくたちの話し合いとは違って学級会に参加している人全員が発言しているな。 ・発言できるということはちゃんと自分の意見を持っているんじゃないかな？ ・話し合いが時間内にきちんと終わるのは話し合う順番が決まっているからかな。	○役割ごとに音読するグループを交代させる。 ○自分たちの話し合いと比べることを意識させる。 ※前時で見た映像の場面とグッドモデルの拡大版で児童が発言した箇所を確認し、意見を共有しやすいようにさせる。 ○児童から要望がでる等、必要であればペアで話し合わせる。 ○グッドモデルの話し合いは5つの流れで進んでいることをおさえさせる。 ☆モデルの話し合いをもとに話し合いの進め方について理解し、自分たちの話し合いとの違いをとらえている。 【話聞】（発言、ノート）
3 本時の学習を振り返る。	○国語日記を書かせる際のポイントを示す。
4 次時の学習を知る。 家庭学習のサイクル化 家庭学習 話し合いの中で上手くいかなかったことを解決するために使いたいと思うところに印をつけてくる。	○次時はこれまでの話し合いの中で上手くいかなかったことについてどのようにすれば解決するのかを考えていくことを予告する。

本時の学習（3／8）

第二次 1 時間目

（1）目標 役割に応じて、よりよく話し合いを進めるための話し方について理解することができる。

（2）展開

主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点（○） 評価（☆）支援（※）
1 本時の課題をつかむ。 思考したくなる課題設定 ぼくたちで学級会を創るために 役わりごとの進め方のコツをまとめよう。	○前時の「国語日記」を紹介し、児童の意欲化を図る。 ○前時で学習した話し合いにおける役割を確かめる。
2 課題を解決する。 （1）グッドモデルを音読する。 自力解決の場 （2）グッドモデルから役割に応じた話し方はどのようなものがあるか考える。 ・司会をする時には「質問はありませんか。」と参加者に聞けばいいな。 ・たくさん書いてあってどこか分からないな。 かかわり合う授業 （3）グループで確認する。 ・ぼくたちの話し合いとは違って一人一人が自分の意見を言っているな。 ・司会をする人は発言が出ていない意見があれば、それについて発言を求めたらいいんだな。 （4）本時の学習をまとめる。 全体	○①「議題をたしかめる」から③「それぞれの意見について質問する」までを音読させるようにさせる。 ○司会が議題に沿って進行するためにどんな言葉を使って発言をつないでいるのかを考えさせる。 ※板書をもとにまずは教師と一緒に考え、徐々に一人で考えることができるようにする。 ○グループで話し合ったことはホワイトボードにまとめさせるようにさせる。 ☆役割に応じて、よりよく話し合いを進めるための話し方について理解している。 【話聞】（発言、ノート） ○グループごとにまとめたもの同士の共通点や相違点を考えさせる。 ○役割によって話し方が違うことをおさえさせる。 ○国語日記を書かせる際のポイントを示す。
3 本時の学習を振り返る。 ・今日は1番と3番を中心に振り返りを書くぞ。 ・自分だけでは分からなかった話し方が友達の意見を聞いて分かったぞ。	
4 次時の学習を知る。 家庭学習のサイクル化 家庭学習 ④と⑤のそれぞれの役割は何なのか印をつけてくる。	○次時は「④それぞれの意見について話し合う」と「⑤意見をまとめる」についての話し方を考えることを知らせる。

(3) 評価規準

B 概ね満足できる状況

◆役割に応じた話し方のコツをまとめることができる。

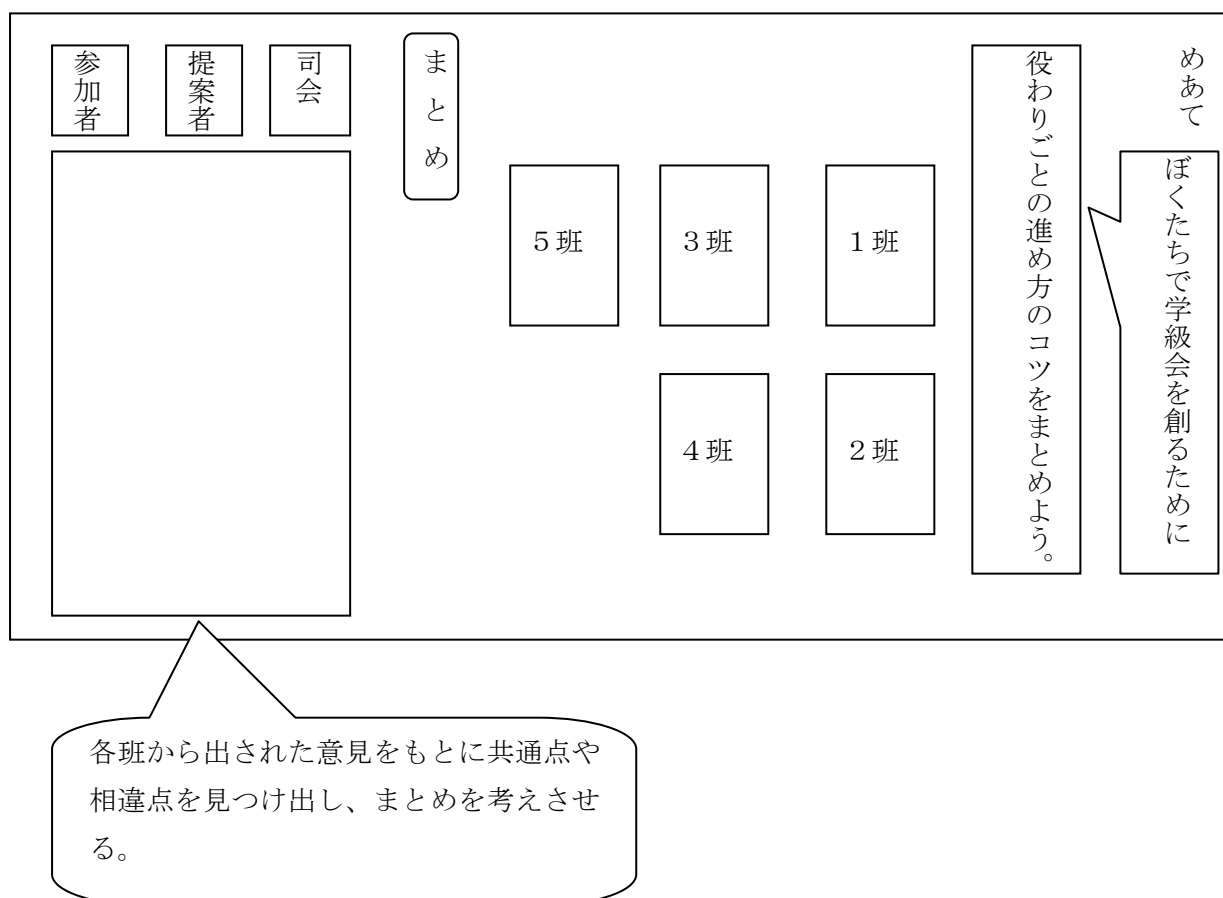
司会の進め方のコツは、話し合いの議題をたしかめることが大切です。提案者は、提案することと理由を話すことです。参加者の話し方のコツは、議題に沿って考え、自分の意見を進んで伝えることと前に出た意見と比べて話すことです。

A 十分満足できる状況

◆役割に応じた話し方のコツを詳しくまとめることができる。

司会の進め方のコツは、話し合いの議題をたしかめ、簡単に意見をまとめながら進行していくことが大切です。提案者は、提案することと理由を分かりやすく話すことです。参加者の話し方のコツは、議題に沿って考え、自分の意見を進んで伝えることと前に出た意見と比べて話すことです。さらに理由を入れながら意見を伝えることが大切です。

(4) 板書計画



(5) 準備物

- ・グッドモデルの拡大コピー
- ・グッドモデルの1枚文 (児童配布用)

第二次 2時間目（4／8）

（１）目標 役割に応じて、よりよく話し合いを進めるための話し方や聞き方について理解することができる。

（２）展開

主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点（○） 評価（☆）支援（※）
1 本時の課題をつかむ 思考したくなる課題設定 ぼくたちで学級会を創るために 話し合いで発言する時の話し方や聞き方についてまとめよう。	○国語日記を紹介し、意欲づけを行う。
2 課題を解決する。 （１）グッドモデルの④と⑤を音読する。 自力解決の場 （２）グッドモデルの良い所を探す。（④と⑤） - 話し合いがそれていたらきちんと司会が話を戻しているな。 - 反対意見を言う時も１度友達の意見の良い所を言っているな。 かかわり合う授業 （３）全体で交流する。 - 人の意見を聞いて、いいと思ったら意見を変えてもいいんだな。 - にている意見はまとめて整理すればいいのだな。	○役割ごとに音読するグループを交代させる。 ○話し方や聞き方に注目させる。 ○自分たちの話し合いと比べることを意識させる。 ※前時で見た映像の場面を板書に掲示し、話し合いを視覚的にとらえさせる。
3 本時の学習を振り返る。	○児童から要望がでる等、必要であればペアで話し合わせる。 ○友達の意見をいったん受け止めてから反対意見を述べる話し方のよさをおさえさせる。 ☆役割に応じて、よりよく話し合いを進めるための話し方や聞き方について理解している。【話聞】（発言、ノート） ○国語日記を書かせる際のポイントを示す。
4 次時の学習を知る。 家庭学習のサイクル化 家庭学習 どんな役割をしたいか決め、ノートに書いておく。	○次時は議題ごとに役割を決め、話し合いに向けて準備していくことを予告する。

第二次 3時間目（5／8）

（１）目標 自分の役割について考え、話し合う準備をすることができる。

（２）展開

主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点（○） 評価（☆）支援（※）
1 本時の課題をつかむ 思考したくなる課題設定 ぼくたちで学級会を創るために 議題ごとに役割を決め、話し合いに向けたじゅんぴをしよう。	○国語日記を紹介し、意欲づけを行う。
2 課題を解決する。 （１）議題ごとに役割を決める。 ・この議題はわたしが提案したものだから提案者になって想いを伝えよう。 ・今まで司会をやったことないから挑戦してみよう。 自力解決の場 （２）自分の役割に応じた話し合いの言葉を考える。 ・話し合いがずれてきたら「話しがそれています。」と発言しよう。 ・何を書けばいいかわからないな。 （３）２つ目の議題についての話し合いの言葉を考える。 ・今度は「参加者」として発言の言葉を考えよう。 ・意見はいくつも考えておいた方がいいな。	○議題を出し、各グループで司会、提案者、参加者の役割を決めさせる。 ○役割と話し合いの進め方を確認する。 ○意見等は複数考えるように促す。 ※壁面の掲示物で役割に応じた話し方を教師と確認し、まずは一緒に考えるようにする。 ☆自分の役割について考え、話し合う準備をしている。 【話聞】（発言、ノート）
3 本時の学習を振り返る。	○国語日記を書かせる際のポイントを示す。
4 次時の学習を知る。 家庭学習のサイクル化 家庭学習 準備した意見をいつでも言えるように準備し、新しい意見を思いついたら書いておく。	○次時は小グループで話し合いを行うことを予告する。

第二次 4時間目（6／8）

（１）目標 話し合いについて互いの良い点や改善点を伝えあうことができる。

（２）展開

主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点（○） 評価（☆）支援（※）
1 本時の課題をつかむ 思考したくなる課題設定 ぼくたちで学級会を創るために ミニ学級会を見あい、良い点やアドバイスを伝えあおう。	○国語日記を紹介し、意欲づけを行う。
2 課題を解決する。 （１）役割を確認する。 ・１つ目の議題では「司会」をするんだったな。 かかわり合う授業 （２）各グループで話し合う。 ・予想していなかった展開になって言葉がでてこなかったな。 ・自分の意見を言えたぞ。ただ、友達の意見を受け入れられていなかったぞ。 （３）参観者からのアドバイスを聞く。 ・議題に対してもっと自分の考えと理由を詳しくしたほうが分かりやすいよ。 ・司会は話し合いがどのように進むか予想しておいてたくさん言葉を考えておいた方がいいよ。 3 本時の学習を振り返る。	○各グループで司会、提案者、参加者の役割を確認し、スムーズに話し合いが始められるように留意する。 ○Aグループから話し合いを行い、Bグループは参観者となる。1グループの話し合いは10分とする。 ※壁面の掲示物で役割に応じた話し方を確認できるようにしておく。 ○アドバイスされたことはメモするようにさせる。 ☆話し合いについて互いの良い点や改善点を伝えあっている。 【話聞】（発言、ノート、映像記録） ○アドバイスし終わったらBグループが話し合いを行い、同様にアドバイスを言わせる。 ○国語日記を書かせる際のポイントを示す。
4 次時の学習を知る。 家庭学習のサイクル化 家庭学習 アドバイスしてもらったことをもとに発言する言葉を再度考え、ノートに書いてくる。	○次時はもう1度小グループで話し合いを行うことを予告する。

第二次 5時間目（7／8）

（１）目標 話し合いについて互いの良い点や改善点を伝えあうことができる。

（２）展開

主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点（○） 評価（☆）支援（※）
1 本時の課題をつかむ 思考したくなる課題設定 ぼくたちで学級会を創るために 話し合いを進めるポイントをたしかめよう。	○国語日記を紹介し、意欲づけを行う。
2 課題を解決する。 （１）役割を確認する。 ・ 2つ目の議題では「参加者」をするんだったな。 かかわり合う授業 （２）各グループで話し合う。 ・ この前よりも話し合いがスムーズにいったぞ。 ・ 話し合いが上手にいかないな。 （３）参観者からのアドバイスを聞く。 ・ この前よりも理由は詳しく言えていて分かりやすくなっていたね。 ・ 意見が議題とずれてきた時にすぐに話を戻せていたね。 3 本時の学習を振り返る。 ・ 今まで学習してきたことをまとめて書くぞ。	○各グループで司会、提案者、参加者の役割を確認し、スムーズに話し合いが始められるように留意する。 ○Aグループから話し合いを行い、Bグループは参観者となる。1グループの話し合いは10分とする。 ※壁面にある話し合いのポイントをもとに教師がアドバイスを行う。話し合いがスムーズに展開するまでは教師も一緒に話し合いに参加する。 ○参観者は前回の話し合いと比べて良くなった所を意識して見つけさせる。 ※壁面の掲示物で役割に応じた話し方を確認できるようにしておく。 ○アドバイスされたことはメモするようにさせる。 ☆話し合いについて互いの良い点や改善点を伝えあっている。 【話聞】（発言、ノート、映像記録） ○国語日記を書かせる際のポイントを示す。
4 次時の学習を知る。 家庭学習のサイクル化 家庭学習 議題についての自分の意見をノートに書いてくる。	○次時は学級会を開くことを予告する。 ○議題は後日小黒板に示すことを予告し、役割も決める。

第三次 1時間目（8／8）

（１）目標 話し合いの中で互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話することができる。

（２）展開

主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点（○） 評価（☆）支援（※）
1 本時の課題をつかむ 思考したくなる課題設定 学級会を開き、今までにつけた力をためそう。	○国語日記を紹介し、意欲づけを行う。
2 課題を解決する。 （１）役割を確認する。 ・今日は「司会」をするんだったな。 かかわり合う授業 （２）学級会で話し合う。 ・学習したことを意識して話し合おう。 ・話がずれてきたぞ。参加者だけど、議題に話を戻す意見を言おう。 3 本時の学習を振り返る。	○司会、提案者、参加者、記録係の役割を確認し、スムーズに話し合いが始められるように留意する。 ○教師は極力発言しないようにし、児童に話し合いを進めさせる。 ※話し合いを進めるポイントを確認させ、発言を促すようにする。 ○話し合いをしている様子を映像にとっておき、後日見せることで自分達の成長を実感させる。 ○話し合いは30分で行う。 ☆話し合いの中で互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話している。 【話聞】（発言、ノート、映像記録） ○国語日記を書かせる際のポイントを示す。
4 次時の学習を知る。 家庭学習のサイクル化 家庭学習 今度の学級会で話し合いたい議題を考え、議題箱に投函する。	